

吾彦大橋（あびこおおはし）



写真 1 吾彦大橋（右岸下流側より）

(1) 橋の諸元

所在地：大阪府大阪市住吉区苅田 10 丁目 11（北詰側）

道路名：府道 28 号

河川名：大和川

建設年：1976 年（昭和 51 年）

形 式：連続合成 2 主桁橋

橋 長：195m

幅 員：22.5m

(2) 周辺環境と橋の歴史

吾彦大橋は、大阪市住吉区と堺市北区を結んでいる。大阪メトロ御堂筋線が橋の下を通っており、あびこ駅と北花田駅のほぼ中間にある。近くには大阪公立大学の杉本町キャンパスがある。

橋の北東側、庭井町にある大依羅（おおよさみ）神社の祭神は住吉三神と建豊波豆羅和氣王（たけとよはずらわけおう）という依羅（よさみ）・我孫子（あびこ）地方の豪族の祖先である。また当地方は天皇料地で古くから開け、日本書紀崇神（すじん）天皇 62 年の条には依網池を掘った記録がある。この依網池は約 1 平方キロメートルにも及ぶ大池で、長く灌漑に利用されていた。しかし 1704 年（宝永元年）大和川の付け替えで、池は大和川により分断され縮小し、現在では全く姿を消している。

本橋は、大阪市の南部地域開発に関連し、都市計画道路天王寺吾彦線と、堺市の都市計画道路常盤浜寺線を連結するものとして計画され、1972 年（昭和 47 年）から着工して約 4 年で完成した。橋面には、片側 2 車線の車道と、幅 2m×2 の歩道、2m×2 の自転車道が設けられている。本橋と同時期に、行基大橋（1977 年（昭和 52 年）：大阪狭山線）、瓜破大橋（1981 年（昭和 56 年）：内環状線）、新明治橋の第 1 と第 3 部分（1981 年（昭和 56 年）：中央環状線）の工事も進められ、大和川には次々と大規模な橋が架かっていった。

(3) 橋の現況

2023年（令和5年）12月2日に撮影した橋の状況を写真2から写真5に示す。



写真2 下面から見た橋



写真3 桁端の落橋防止装置



写真4 中間支点の桁外面



写真5 中間支点付近の桁内面の構造物

写真2は、下面から見た橋である。当時としては珍しい連続合成2主桁橋という技術の先端をいく構造である。広幅員の橋床を2本の主桁で支え、密に配置した横桁は、ニーブレース形式で主桁に接合させている。床版はRC床版に見えるが、どのような設計がされたか、興味深い。

写真3、写真4、写真5は、1995年（平成17年）の阪神大震災以降に、レベル2地震に対する耐震対策のために設置された落橋防止装置と考えられる。写真3では、桁端の橋軸方向の落橋防止装置として、ケーブルとダンパーの両方を用いている。中間支点では、写真5に示す移動制限装置が設けられている。写真4の桁外面の補剛は地震力を受けたときのI桁の面外剛性を高めるための構造と考えられる。いずれにしても、本橋の橋長、幅員と構造形式を考えたとき、レベル2地震対策として、過大とは思えない。

参考文献

- 1)大阪市建設局：吾彦大橋、(<https://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/0000026535.html>)
- 2)大阪市：大依羅（おおよさみ）神社・依網（よさみ）池跡、(<https://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/0000009397.html>)